

カダイハードビクセン 地獄の巨乳戦士 HARD TO DIE

- 1 -

1990年アメリカ映画

監督||ジム・ウイノウスキー

出演||ゲイル・ハリス／

カレン・メイヨ・チャンドラー／

デブラ・ダッチ／メリッサ・ムーア／

ブリジット・カーニー／



- 2 -

ひどいタイトルもあったもんです(爆)。

まあ、輸入販売会社が邦題をつける際に、ヒットした映画をもじって適当なタイトルリングをすることは珍しいことはありませんが、まさか原題まで **Hard to Die** だとは思っていませんでした(私が借りたビデオでは、タイトルは **Tower of Terror** でした。この手のB級映画は、タイトルだけかえて何度も売り出されることは珍しいことではないようです。もっとも **Tower of Terror** も、古い戦前のホラー映画からパクったらしいのですが……)。

ちなみに、アメリカの映画データベースのHPをみると、この映画のジャンルは、「アクション」「コメディ」「ホラー」「スリラー」なんだそうです。たしかに、分類不可能な映画です。あえて言えば「金髪巨乳Z級映画」とでもいうしかありません。

いちおう、『**ダイハード**』のパロディですから、舞台はオフィスビルです。ただし、テロリストも、彼らを敵に回して戦う刑事も出てきません。出てくるのは、下着姿の金髪巨乳が五人。化け物じみた太った大男が一人。あとは、ストーリーの都合上出さざるをえない端役が何人か。

あんまり説明する気にもならないのですが、一応筋立てを。深夜、オフィスビルに五人の美女が訪れます。だれもいない森閑としたビルのなかで、美女たちは「暑いわね」というだけの理由

で、全員、下着になってしまふ。すると、そこに悪霊にとりつかれた大男が現れ、美女たちを追い回す。逃げ回る美女たち。都合よく、五人ばらばらになって、一人ずつ、大男との格闘シーンがあります。

健闘むなしく、五人のうち三人は殺されますが、実は、悪霊にとりつかれていたのは、五人の美女のうちの一人で、彼女が仲間の美女たちを殺害したことがおしまいあたりで判明。大男は、実は彼女を追う正義の味方だったのでした。おしまい。

それでも、三度の金蹴りシーンがあるのが嬉しいところで、とくに、ヒロインの涙ぐましい格闘ぶりは、なかなかスケベ心をくすぐります。エレベーターに乗ろうとしたら、いきなり大男が出てくる。美女は「きゃあああ〜〜〜〜〜」と悲鳴をあげながら、気丈にも肩をつかんで膝金蹴り。よろめく大男をひきずり回し、千枚通しで何度も胸をぐさり。返り血を浴びた美女は、痛そうに腰をかがめ、ハイヒールでよたよたと退場。悲鳴をあげながら、というのがいいですよ。そこでなにもできずに怯えるのではなく、敢然と急所蹴りで立ち向かっていくところは、やはり現代アメリカ女性らしくて(ほんとか?)、そういう設定、私は好きですね。

他にも、非常階段で大男と鉢合わせした別の美女が、やはり「きゃあああ〜〜〜〜〜」と叫びながらも、膝金蹴りを浴びせ、階段から突き落とすという勇ましいシーンもありました。ビヤ樽のような大男が、下着のねえちゃんにタマを蹴られてごろんごろんと転げ落ちていくシーンも

同様になかなかよろしい。女王様然とした女性が男性を責め苛むよりも、ごく普通の女性が、勇を振るって玉を蹴って逆襲し、徹底的に敵を痛めつける。そういう設定が似合うのは、やはり白人女性に限るとというのが私の持論なんです（じゃなきや、こんなビデオ借りるわけがない！）

困るのは、玉を蹴られ、千枚通しで何度も刺され、あげくの果てに階段から突き落とされた大男が、平然と何度も蘇ることで、悪霊にとりつかれてるから不死身なんだろうとこっちは勝手に解釈していますが、実はこの男、ごく普通の人間なのであって、じゃあ、普通の人間があれだけの目にあって、なんで平気なんだよ！ と突っ込んでも、なんの説明もないまま映画はおしまい。

なにを細かいことを気にしてるんだ？ おまえさんがみたいのは、美女の巨乳なんだろう？ 彼女らが、髪振り乱し、胸をぶるぶる震わせ、生脚をばたばたさせて戦うからいいんだろ？ そう  
いう場面をこれだけ入れてやったんだから、文句はねえだろ？

そういう作り手のあつけらかんとした態度に満ち溢れた超駄怪作なのであります。